欠席委員意見

鈴木 ひでちか委員

1「読んでみたい話題」（**別紙資料「令和６年度アンケート集計結果報告書」P14 以降を参照**）トップの「カルチャー・アート（エンタメやスポーツを含む？）」の扱いに注意が必要と感じました。

・旬な話題（今なら B リーグ、フロンターレ、少し前なら藤子不二雄ミュージアム）は読者の興味関心を惹きやすいとは思いますが、100 年史ということを考えると、テーマを「線」で捉える必要があるかと思います。

・一過性のブームに捉われずに、「線」で切り出せるテーマ選定が良いかと思います。

2「川崎らしいと思うもの」（**別紙資料「令和６年度アンケート集計結果報告書」P11 以降を参照**）で地域差が大きいと感じました。

・川崎市はエリアによる差も大きいので、複数のテーマを扱うことで、各エリアが満遍なく紹介されると良いなと思いました。

例）「広い緑地や公園」のところでは北部が中心に紹介されるなど皆さんで議論しながらの方が的を得た体験が出やすいかと思いますので、

反町 充宏委員

・市民のアンケート結果が興味深く、結果やはりというかエンタメや便利な交通機関の部分が高ポイントだった点、私はうれしく納得もしました。

・というのも私は生まれも育ちもここ川崎で、幼いころから川崎の交通の利便性はすごい！と思っておりました。

・渋谷と横浜の真ん中にあって、他にも川崎駅、溝口駅、蒲田駅、二子玉川駅などなど、どこにでもすぐにいけるって自慢していました。

・ただそれはまだ小中学生のころの話、その後東横線と目黒線の複々線化、川崎は横須賀線の新駅、南武線の急行、東横線の副都心線直通運転などさらに便利に発展していますね、商業施設においても LAZONA、グランツリー、LA CITTADELLA と地元商店街で殆どなんでも揃い、なんでも体験できると思います。

・いろいろ含めて総合的に、川崎という街は日本一だと思っています。

・エンタメ部門が上位に来る点も個人的にとてもうれしく、それは私の本業がまさにそれで川崎市のエンタメシーンの中心にいる一人だと自負もあるからです。かわさきハロウィン、はいさい FESTA、みんなの川崎祭、アジア交流音楽祭、かわさきジャズといった詩を代表する大規模フェスにも携わってきましたし、市内７区それぞれで独自に開催されている音楽祭の殆どに携わっております。

・上記以外にも音楽、映像、スポーツの事業にはもう数えきれないほどやってきていま

す。エンタメこそ人や街に活力を与え、幸福感を身近に実感できる要素の一つであり今後も川崎でさらに拡充していくことだと思うのでこの部分は大切にしたいです。

・あとは、私のこだわりは「食」です。私の体は川崎の食で仕上がりました。血液はニュータンタンメンの真っ赤なスープとニンニクで、身体は北京（向河原と武蔵小杉にあります）の肉で、内臓は三喜食堂（川崎競馬場内）の煮込みで、上記以外は三ちゃん食堂と和幸のとんかつと丸仙のラーメンで出来ていると思います。

・上記は冗談ですが、「身近なこと」であることが大切だと思うので、食に関することは欠かせない、推しメシ関係とか含めて上手く盛り込めたら良いのかな、と思った次第です。

追加意見（懇談会後に事務局から全委員に任意で追加意見が無いかを伺いました）

阿久津 麻実委員

＜年表について＞

・「今につながる」といった趣旨のご意見がございましたが、私もその考えに共感しております。

・ストーリー性を持たせ、昔から現在につながる流れを感じられる年表にすることで、より興味を引き立てられるのではないかと思いました。

・ドラマや漫画のように、ストーリー仕立てで歴史を紐解くことは、川崎市史の楽しさを感じられる工夫になるのではないでしょうか。

・また、川崎市の未来のビジョンも年表に盛り込むことで、この市史が発行された後に、どこまでそのビジョンが実現したかを振り返る「答え合わせ」のような要素が加わり、さらに興味深いものになるのではと思いました。

＜目次について＞

・目次については、全体的にスッキリと整理されている方が望ましいと感じました。

・情報量が多すぎると、目次本来の役割が薄れてしまうように思います。
また、懇談会でのお話（意見）にもございましたが、ランキング形式を取り入れるのは非常に面白いアイデアだと思います。

・年表や目次についても、大小や強弱をつけることで、全体にメリハリが生まれるのではないでしょうか。

落合 功委員

＜年表について＞

・福岡のパンフレットにもあるように「和暦」もあった方が良いと思いました。

・川崎の歴史の流れが何となくでも構わないので、わかると良いと思います。

＜目次について＞

・ファクトチェックはしていただけるとのことですので、実際は安心しています。

・目次については、これで良いのかどうかよくわかりません。
なので「川崎１００年」が重視されているのかも。
要するに、川崎市制の１００年を中心としているのかと思っています。

・**（第２回懇談会の）**当日、申し上げたように、それぞれのテーマで川崎らしさを示していただけると良いと思います。

・フロンターレ（川崎スポーツ）の川崎らしさ。農業の川崎らしさ。などなど。
あと、有名人や名物・名品なども良いのですが、普通の部分もあると良いです。（当日に話をした児童の体力の変化など）

竹内 元浩委員

＜年表について＞

1　年表の掲載位置

・**（第２回懇談会にて）**どなたかが発言しておられましたが、私も年表は最初に掲載した方が良いと思います。川崎地域の歴史の大雑把な把握に年表はうってつけだからです。

2　年表の機能

・皆さんから意見が多く出されたように、市史記念版の年表には、少なくとも 3 つの機能が必要です。

（１）歴史概観機能　歴史の変化の流れをつかむ

（２）紐付け機能　　本文との紐付けをする。本文のどこに書かれているかを年表に記載する

（３）地域表示機能　歴史上の出来事が、細長い川崎のどこで起きたかを明示する

3　分野別年表にする

・上記（１）の「歴史概観機能」を考えた時、様々なジャンルの記述が一表になっていると頭に入りにくいです。分野別にすると概観しやすいですし、上記（２）の「紐付け機能」としての有用性が増します。

・分野の数は、逆に多すぎても歴史の流れがかえって分かりにくくなるので、最大４区分程度に留めます。

・時代によって区分方法を変えます。近現代と古代・中世では、必要な切り口が異なるからです。

・区分案は以下のとおりです。**（別紙１に記載しています）**

4　紐付け機能

・上記（２）の「紐付け機能」です。本文との紐付けです。

・ある項目が本文のどこに書かれているかを年表に記載します。多くの皆さんが指摘していたことですが、私も必要だと思います。

5　地域表示機能

・上記（３）の「地域表示機能」です。細長い地形の川崎では必須だと思います。

・地名等には必ず現在の地域を表示します。例えば、田島町（現川崎区）、富士見公園（川崎区）のように。

・地域別年表にすることも一案ですが、市域全体に跨る事象があるのと、歴史概観のしやすさや市域の一体性重視などを考えると、上記３の分野別年表とし、その代わりに地域表示することが望ましいと考えました。

＜目次について＞

1　資料の事前送付

・目次は全体の構成を表す重要なコンテンツなので、事前送付し各委員に予め考えて

もらった方がよかったと思います。というのは、目次のような作り手の様々な意図が含まれたものは、懇談会の場で初めて目にすると述べられる意見が表層的なものになりがちだからです。

・今後も、重要な議題については、前日の夜でも構わないので、事前送付していただけるとありがたいです。

2　カタカナ語は極力使わない

・小中学生が重要な読者なので、和語・漢語を極力使い、カタカナ語を使わない方針を採るべきと考えます。和語・漢語であれば意味がある程度類推できます。
ただし、「スポーツ」「データ」など一般化しているものは除きます。

・以下に実例を示します。

（以下に記載のある３桁の数字（「174」「050」「068」など）は、別紙資料「目次案」を参照）

例）174「・・・クロニクル」は「・・・年代記」または「・・・年表」が望ましい

例）050【フェスティバル】は【お祭り】が望ましい

例）068「・・・ものづくりのエナジーが・・・」は「・・・ものづくりの情熱が・・・」が望ましい

例）100「・・・ダイバーシティの街を・・・」は「・・・多様性の街を・・・」が望ましい

3　「034 いつだって、川崎は【川崎テーマ史】」の構成見直し

・本書の核心部分である「川崎テーマ史」で提示された項目の順番には作り手の意図があるようですが、小項目が多数並んでいるために何をアピールしたいのか焦点がぼけてしまっていると感じます。

・私の問題意識に照らせば、「子供たちの未来に繋げるための歴史の見える化」が大事です。そのために幾つかに分割してみてはどうでしょうか。

・私の案は「文化」「水」「交通・産業」「暮らし」の４分割です。いずれも川崎のアイデンティティーに関わる重要なものです。

（４分割案は別紙２に記載しています）

4　江戸時代の支配区分地図

・江戸時代は市域のほとんどが天領か旗本領・寺領だったと認識しています。

・ある時点（例えば 1800 年頃）の各領地の状況を地図で示してみてはどうでしょうか。そうすることで、江戸時代の川崎が「〇〇藩」の領地ではなく、幕府と直接結び付いていたことがよく理解できます。

5　川崎のダイナミズムの表現（人口重心の推移地図）

・ここ数十年、人口増加が特に北部で著しく、７区の人口バランスが南部から北部に移動し、地域間人口バランスの均衡化が図られながら人口が増加しています。順調に発展している川崎のポイントの一つです。

・このことが川崎のダイナミズムを表していると思い、どうすれば小学生でも理解できるように表現できるかを考えてみました。

・一つの地図に、現在の市域が成立した 1939 年から 10 年毎の人口重心点（9 点）を示し、それらを直線で結び、ここ数十年は重心点がだんだん北部に向かって移動していることを示すイメージです。
・川崎市の地図上で人口重心がどう経年で推移したかを示せば、北部の発展が直感的に把握できます。本図を掲載することを提案します。

6　多摩川の流域の変化の推移とその名残

・江戸時代と現在では、多摩川の流域は大きく変化しています。その影響なのか、北岸に川崎市域があったり、南岸に東京都域があったりしますね。
・地名も、等々力や丸子のように川崎と東京に同じ地名が残ったりしていますね。
そこで、以下のようなトピックスを作ってみてはどうでしょうか。
　●旧多摩川の流域と現多摩川流域を地図上で見える化します。
　●北岸の川崎市域と、南岸の東京都域を具体的に示します。
　●地名の解説を加えます（等々力、丸子など）。
こうすることで、川崎にとっての母なる河である多摩川に対する興味が湧くと思います。
・036（多摩川）や、138（川崎の地形はこうやって生まれました。）で取り上げられる予定なのかもしれませんので、既にご検討いただいている場合はご容赦ください。
・なお、配付された「カワサキノコト」にこのコンセプトが盛り込まれたコンテンツ「多摩川 Rediscovery Map」が掲載されているのに、第 2 回懇談会終了後に気づきました。ですが、このコンテンツでは 1894-1915 年の流路と比較しており現在と余り流路が変わりません。例えば下丸子が東京側に、上丸子が川崎側にあります。私のイメージは、もっと激しく蛇行していた頃（下丸子が川崎側にあった時期）のとの比較です。その時期と比較するともっとインパクトがあると思います。流路遷移のファクトチェックが難しいのかもしれませんが。

7　縄文時代の海岸線変化の歴史を、地球温暖化リスクに結び付け

・縄文時代は 1 万年以上あるため海岸線が大きく変化しています。
・草創期・早期・前期・中期・後期の海岸線の変化を、現在の川崎市域に重ねて表示することで、実感しやすくなります。
・一方で、地球温暖化によって 2050 年には川崎南部の相当部分が水没する可能性が指摘されています。
・過去の海岸線変化を、地球温暖化による将来の水没リスクと結び付けることによって、地球温暖化による海岸線変動が身近な問題であることを読者に提起できると思います。
・138（川崎の地形はこうやって生まれました。）で取り上げられるとは思いますが、縄文時代に海退・海進を繰り返したことと、地球温暖化によって現代の問題であることの結び付けを検討していただきたいのがポイントです。

8　川崎空襲（空襲被害の見える化）

・1945 年（昭和 20 年）4 月の川崎空襲は川崎市南・中部に壊滅的な被害をもたらしました。現代においても外国勢力によるミサイル空爆等が想定されます。子供達に空襲の歴史を教えるべきと考えます。

・私のイメージは、川崎市南部・中部（川崎区・幸区・中原区）の現在の写真地図に、空襲罹災地域を図示するというものです。そうすることによって現実の問題として読者が理解しやすくなります。提示された目次案では、本アイテムに該当する項目が見当たりませんが、ぜひご検討いただきたいです。

【別紙１】

竹内委員の年表の区分案は以下のとおりです。

〇近世・近代・現代　（安土桃山時代～現在）

・「行政・教育」、「交通・産業」、「社会」、「文化・スポーツ」に 4 区分します。

・「アミガサ事件」、多摩川大洪水（1910 年）などは「社会」

・川崎市民プラザ開館（1979 年）などは「行政・教育」

・日本鋼管が田島にできる（1913 年）などは「交通・産業」

〇古代・中世　（飛鳥時代～戦国時代）

・この時代は近世～現代とは異なるので、時代に即した区分が必要です。

・「統治者」、「交通・産業」、「文化・宗教」に 3 区分します。

・「統治者」区分を設けるのは、川崎の場合、古代・中世の歴史を考える上で誰の統治を受けていたかが分かりにくいからです。統治者を記載することで、歴史理解がしやすくなります。

・稲毛三郎重成が稲毛荘の在地領主となる、などは「統治者」区分

・禅寺丸柿の栽培などは「交通・産業」区分

・寺の建立などは「文化・宗教」区分

〇旧石器時代～古墳時代

・区分しません。

【別紙２】

竹内委員のテーマ史の区分案は以下のとおりです。

(A)「文化」…いつだって川崎は文化のまち

上記 2（「カタカナ語は極力使わない」）の考え方により「文化」を「カルチャー」とするような表記は避けるべきと考えます。

040（多摩川花火）

042（川崎大師）

046（スポーツ）

050（「フェスティバル」改め「お祭り」）

058（「ストリートカルチャー」改め「若者文化・ストリートカルチャー」）

054（音楽）
060（映画）
062（「アート」改め「芸術」）
064（マンガ）

・川崎を特徴づけるものとして「若者文化・ストリートカルチャー」の優先順位は高いので、なるべく前に持ってきたいです。
・なお、上記（２）の考え方からは「ストリートカルチャー」は和語・漢語にすべきですが、若者の間でこの表現が定着しているようですのでそのままにします。その代わり「若者文化」を併記します。

(B)「水」…いつだって川崎は水と生きる

036（多摩川）
076（二ヶ領用水）

・多摩川は川崎市域の肥沃な土壌の母であり、二ヶ領用水は農業発展の基礎のみならず川崎の地域共同体成立に貢献したことから、「水」を独立させるべきと考えました。
・なお、現在の川崎市成立には水供給（水道）によるつながりがあったと聞いていますので、そういったエピソードも追加すると「水」がなぜ重要なのか理解がより進むと思います。

(C)「交通・産業」…いつだって川崎はいろいろなまちと繋がり、産業の力を発揮する

084（川崎宿）
086（交通）
080（農業）
072（工業）

・キングスカイフロントに代表される研究開発型拠点の整備、臨海部における「カーボンニュートラルコンビナート構想」など、未来に繋がる案件が大きく取り上げられることを期待します。

(D)「暮らし」…いつだって川崎は暮らしやすさに向き合う

090（住まい）
066（公園・緑地）
092（教育）
068（環境）
096（災害・防災）
100（多様性）